

令和8年度

浜松市立相生小学校 第2回 学校運営協議会

令和8年 7月30日(木)

協議会 13:30~15:30

場 所: 多目的室

次 第

〈 司会: 前田、 記録: 伊藤 〉

開会 開催要件(過半数の出席)確認

1 会長挨拶

2 校長挨拶

3 議長の選出

4 前回会議録確認

5 熟議 〈 議長: 中川 記録: 伊藤、各グループ 〉

(1) 前期学校評価結果と今後の取り組み

熟議「課題を踏まえた改善策の検討」

	委員	主なテーマ	教職員
A	大谷	テーマ1(・5)	○新井、生崎、松尾
B	水谷	テーマ1(・3)	○村上、高山、小粥
C	森田	テーマ1(・4)	○田村、尚子、木場
D	中川	テーマ4(・5)	○真季子、藤田、青木
E	川合	テーマ2(・1)	○尾嶋、駿也、今村、人見
F	澤柳	テーマ4(・3)	○鳥居、洸太、八波
G	松本	テーマ3(・4)	○康之、三谷、上村

※オブザーバーの神谷さん、その他の方については当日にグループに入っていただきます。

(2) 多様性を認め合える安心感のある学級・学年・学校づくりに必要な支援について

熟議「(1)の熟議を受けて協議会として何をするべきか」

6 報告

・学校支援CDからの活動報告

7 連絡

・次回開催日時 第3回学校運営協議会 12月16日(水) ※後期学校評価を受けて

令和8年度 第1回相生小学校運営協議会 会議録（要点記録） （※敬称省略）

- 1 開催日時 令和8年5月12日（火） 14時00分から15時30分
- 2 開催場所 相生小学校 多目的室
- 3 出席委員 大谷一雄、水谷加寿代、廣野篤男、原隆之、森田賢児、中川有香（学校支援コーディネーター）、川合裕美、澤柳和也、松本薫（学校支援コーディネーター）
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 神谷匠（東部協働センター）
- 6 学校関係 小林延和（校長）、岡本綾子（教頭）、前田武稔（主幹教諭）、伊藤龍彦（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 伊藤龍彦
- 9 議長の選出

司会から、会長に、議長の選出について意見を求めたところ、中川委員を推薦したため、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- （1）学校運営の基本方針について
- （2）夢育やらまいか事業（CS加算分）について
- （3）学校運営協議会の自己評価について

11 会議記録

司会の前田主幹教諭から、委員総数9人のうち全員の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（熟議）

（1）学校運営の基本方針について

校長より、資料に基づき、説明があり、委員からは、下記の発言があった。

- 多様性という言葉が出てきた。相生小の外国籍の子供はそんなに多くないと思っている。他の学校で多いところは、言葉の支援や生活のための支援に時間がかかると聞く。相生小はどのように対応しているのか？（森田委員）
 - ・ 相生小では、2名の外国人教科指導員がおり、20名くらいの児童を担当している。日本語が全く分からず苦労する子もいるが、中学生の場合、江南中学に日本語の初期指導のクラスがあり、利用されている。国籍や入国の理由も多様化してきている。（校長）
 - ・ 浜松まつりのソラモのイベントで会った、外国の人は、みんな日本語が上手でした。（原委員）
 - ・ 日本の学校で外国人をどう指導するのか？難しい面もある。特に、給食は、宗教による食事制限や特定の食材の禁止があり、食べられない。（校長）
 - ・ 宗教による食事制限のある子に給食を提供することも大変である。浜松市は教育委員会が中心となり、外国人支援をしてくれている。（森田委員）
 - ・ 給食の問題は、大変だと思う。（廣野委員）
 - ・ HICE（浜松国際交流協会）で、外国人支援をしており、科学館で授業と活動をしている。（会長）
- 以前に朝早く登校する子が多いと聞いた。今はどうか？（会長）
 - ・ 早い子は、7時過ぎに学校に来る。今年度、昇降口を開ける時刻を7時40分にしたので少し遅くなった。職員が対応しているが、職員の勤務時間は8時からのため、申し訳なく思っている。（校長）
 - ・ 1年生の給食補助ボランティアに参加した。外国の子は、日本語を話せる子が多いけれど、食べ物は注意して対応をしている。給食補助ボランティアに参加してすごくよかった。（水谷委員）
 - ・ 残食の多さが気になっている。（中川委員）

- ・ 昨年度、途中から栄養教諭や担任が、残食を減らすよう意識して声を掛けた。その結果、以前より残食が減った。 (校長)
- ・ 今年から、給食の無償化が始まった。 (校長)
- ・ 今年、1 年保護者の給食参観を計画している。給食の量、食事の様子を見ていただく良い機会と考えている。 (校長)
- ・ 給食の残飯は、浜松市全体で年間 90 トンもあるといわれている。 (森田委員)
- ・ 栄養教諭中心に子供たちに伝えることが、大切である。今まで以上に、指導していく。栄養教諭が、教室を回って熱心にやってくれている。家庭科や保健の授業にも参加してくれている。 (校長)
- ・ みそ汁の具材を子供たちに説明する栄養教諭の声掛けが大変良かった。 (川合委員)
- ・ 1 年生の入学前に保護者に給食を食べてもらうことをやっている学校もある。 (校長)
- ・ 給食の無償化の話により、残食が増えることが心配。食べ物を粗末にしないように指導してほしい。 (森田委員)
- ・ 今年、1 食分の給食費が上がったことで、おかずやデザートが充実した。子供たちは、よく食べている。おかずの具材が1 つ増えるだけでも話題になる。 (校長)
- ・ 我が家では、子供たちが家の中で給食の話をしてくれて、親子のコミュニケーションになっている。 (澤柳委員)
- 挨拶は大変良くなったと感じている。先日も横断歩道で停車したら、1 年生くらいの子が、何度も頭を下げ、感謝を表してくれた。 (森田委員)
- ・ 交通教室で、渡らせてもらったら、必ず、挨拶をするように指導している。中学生もよい手本となっている。小学生も習慣づけていきたい。 (校長)
- ・ 浜松まつりで関わっている子は挨拶をしてくれるが、今日、廊下であった子供で挨拶してくれたのは、5 割くらいだった。 (原委員)
- ・ 今日、内科検診があり、廊下で挨拶は控えるように指導していた。今後とも時と場に合った挨拶を心掛けるよう指導したい。 (校長)
- ・ 今日、ハロスポのボランティアに参加した元運営協議会委員の方から、活動終了時に、子供たちがボランティアにお礼を言った方がよいのではないかと提案があった。また、長年、交通安全の見守りボランティアをしている方に子供たちの登校時の挨拶について、尋ねたところ「まだまだ」との返事だった。ボランティアや旗振りの方など、お世話になっている人には、必ず、挨拶できるようにしたい。 (中川委員)

熟議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(2) 夢育やらまいか事業 (CS 加算分) について

教頭より資料に基づき、説明があり、委員からは特別な意見もなく、全員異議なくこれを承認した。

(3) 学校運営協議会の自己評価について

会長より、資料に基づいて、令和 8 年度の学校運営協議会の目標について、説明があった。特に意見もなく、全員異議なくこれを承認した。

1.3 その他の報告事項等

司会から令和 8 年度第 2 回学校運営協議会は、2026 年 7 月 30 日 (木) 13:20～多目的室で開催する旨の報告があった。

資料 熟議 進行方法について

1 会場の設定、協議グループ

昨年度と同様、委員の皆さんと教職員が5～6のグループに分かれ、下記のテーマを参考に熟議をしていただきます。

2 熟議の流れ

13:40～13:50 学校評価アンケート概要及び熟議の方法についての説明【主幹】

13:50～14:35 熟議（１） 【進行：各グループリーダー（教職員）】

①簡単な自己紹介 ②課題に関する情報交換

③解決するための方策

「前期学校評価結果と今後の取り組み」について

～課題を踏まえた改善策の検討～

14:35～14:50 各グループの発表

14:50～15:00 机の配置換え、教職員退席、休憩

15:00～15:25 熟議（２）

「多様性を認め合える安心感のある学級・学年・学校づくりに必要な支援について

～（１）の熟議を受けて協議会として何をするべきか～

3 熟議（１）のテーマ

（１）知 学び合い、ともに成長する子

協議テーマ１ 学び合い

◎家庭学習をどのように進めていけばよいか？

○ 子供たちは、学習することのよさや学び方が分かっていると感じている。（この数年間で少しずつ上昇している。）

▲ 保護者が、家庭学習について様々な意見をもっている。

・宿題を増やしてほしい。 ・自主勉強をさせてほしい。 ・きちんと見取ってほしい。

・タブレット学習よりもプリント（紙）などの方がいい。

▲ 教職員は、家庭学習について課題があると感じている。

・家庭学習を見取る時間（丸付けや個別の声掛け等）がないと感じている。

・家庭学習を方法を時代に合わせて変えていくことを検討する必要があると感じている。

※内容を変える、量を減らす、家庭の判断に委ねる等

※家庭学習は「主体的な学習の推進」か「基礎的な力の定着」か、またはそのどちらもなのか。

▲ 教職員は、授業（教材研究）について課題があると感じている。

・日々の授業を工夫する時間的な余裕がないと感じている。（勤務時間内に行うのは困難）

（２）徳 自他のよさを知り、認め合い高め合う子

協議テーマ２ 認め合い

◎挨拶への意識を高めるために、何ができるか？

○ 子供たちは、「善悪の判断や挨拶についての意識が高まっている」と感じている。

▲ 保護者も教員も、挨拶への意識が低いと感じている。教員からは、「挨拶をしても返ってこない、声が小さくて聞こえない」などの声がある。数年間、課題として常に挙がっている。（合わせて、授業中の発表の声なども全体として小さくて聞こえないという声も多い。）

(3) 体 心身ともに健康で、鍛え合い、あきらめずに挑戦し続ける子

協議テーマ3 鍛え合い

◎学校（給食）及び家庭における「食」に関する指導をどのように進めていったらよいか？

- 安全な生活への意識が高まっている。交通安全に対する声掛け、「校内廊下歩行安全強化WEEK（委員会主催）」などの効果があったと考えられる。
- ▲ 子供も保護者も、食育に関することについて課題があると感じている。教職員も、日々の給食指導に加えて、全校放送での呼び掛け、「残食を減らそうSDGs強化WEEK」での取り組み、栄養教諭の様々な工夫された取り組みなどによって、一定の成果はあるものの、給食の時間の指導や残食について課題があると感じている。
- ▲ 保護者が、規則正しい生活や身だしなみに関して課題を感じている。（自由記述では、髪の色や服装についての意見もある。）

(4) キャリア教育

協議テーマ4 キャリア教育

◎主体的に挑戦し続ける力を育てるために、何ができるか？

- キャリア4項目についての意識は維持・継続している。
- ▲ 保護者の「子どもは失敗を恐れずに自分の方法で繰り返し挑戦することができる」の数値が常に低い。
- ※ 保護者の数値はやや低下しているものの、昨年度選択肢になかった「分からない」が平均4%なので、R6・7と数値はそれほど変化はない

(5) その他

支 家庭・地域と連携・共同し、ともに歩む学校

心身ともに健康で、明るく元気な教職員がいる活力ある学校

協議テーマ5 支え合い部

◎教職員が、子供と向き合う時間（直接関わる時間、授業づくりなど事前の準備の時間）を確保したり、教職員が適切な勤務時間で働いたりするために何ができるか？

- 子供たちの9割が学校が楽しいと感じている。（▲楽しくない子も1割いる）
- 子供たちが、ボランティアさんに支援してもらった学習を楽しんでいると感じており、保護者も教職員もボランティアの協力によって安全で充実した教育活動ができていると感じている。
- 学校生活の満足度と教職員との信頼関係に関する項目では、児童、保護者、教職員ともに数値が高く、概ね教職員が子供に寄り添った教育活動を行っていると考えられる。
- ▲ 教職員は、一昨年度や昨年度と比較すると、「子供と向き合う時間の確保するための手立て」の評価が高くなってきている。タイムマネジメントへの意識、PDCAへの意識も少しずつ高まっている。ただ、それでも多くの課題があると感じている。
- ▲ 保護者から、サマータイム特日課や放課後の遊び制限に関する否定的な意見がある。
 - ・最も暑い時間帯での下校を避けたいが、「午前中の下校」か「6校時後の下校」の2択になってしまう。その場合、授業の標準時数をクリアできない学年が出てくる。
 - ・普通日課にした場合、生き生きタイムと昼休みのたびに「指数測定→全校連絡」が必要になる。また、外が使えない場合の室内での過ごす方法を検討する必要がある。目の届きにくい休み時間のけがやけんか、様々なトラブルへの対応も多くなる。下校後のトラブル対応も多い。

★下線部はR8に加除修正した部分

令和8年度 〔前期〕
学校評価アンケート（7月）

★「保護者」についてはR8に「分からない」を追加したため、各項目平均で4%減となっている。

R8 .7実施

	児童	よく出来ている＋ 大体できている (%)	保護者	よく出来ている＋ 大体できている (%)	教職員	よく出来ている＋ 大体できている (%)
なり び 合 い 、 自 分 と も に 向 か つ て 主 体 的 に	授業で学んだことや、学ぶことのよさが分かっている。	94 R7 93 R6 88	子供は、学習した内容や、学ぶよさがわかっている。	76 R7 76 R6 79	子供たちが分かりやすい授業、学ぶ意味や目的、学ぶよさが分かる授業をしている。	91 R7 86 R6 96
	授業で、学習のめあてを解決するための調べ方や話し合い、振り返りの仕方などの学び方が分かり、進んで学習に取り組んでいる。	91 R7 90 R6 85	子供は、 <u>できるようにになりたいという思いをもち、学習の見通しをもって、真剣に学習課題（めあて）に取り組んでいる。</u>	73 R7 69 R6 70	<u>学年の段階に応じて、「課題の提示」「活動のめあて」「情報の収集」などを活用し、相生スタンダードを目標として、子供たちが主体的・協働的に学習を進めるための「学び方」が分かるように手立てを確実に講じている。</u>	81 R7 95 R6 92
	クロームブックを使うときのルールや約束を守り、学習の目標を達成するための方法（手段）として、授業で正しく使っている。	96	学校は、ICT機器（タブレット端末やテレビ等）を活用し、工夫した授業を行っていて、 <u>子供はそのような授業を楽しみにしている。</u>	78※	クロームブック活用の仕方（情報モラル指導含む）について説明をし、 <u>主体的・協働的な学びにつなげるための手立てを講じている。</u>	67
	毎日、自分で次の日の学習用具の準備をしたり、家庭学習に進んで取り組んだりしている。	88	子供は、 <u>毎日、自分で次の日の学習用具の準備をしたり、家庭学習に進んで取り組んだりしている。</u>	71 R6 82 R5 78	<u>子供たちが、主体的に家庭学習を進めるための手立てを講じている。（家庭学習の事前指導、家庭への説明、見届け、称揚など）</u>	90
	持ち帰ったタブレットについて、学校や家庭の約束を守り、家庭学習で使っている。	93	子供は、 <u>持ち帰ったタブレットについて、学校や家庭の約束を守り、家庭学習で活用している。</u>	76※	<u>学習のきまりや、読書、朝学習などが身に付くように繰り返し指導・声掛けをしている。</u>	91

「※」は、「わからない」の回答の割合が10%以上だった項目（1年生はタブレットをまだ使用していない）

自 他 の よ さ を 知 り 、 認 め 合 い 高 め 合 う 子	友達のよいところに気付くことができる。	93 R7 93 R6 91	子供は、友達のよさに気が付き、協力し合うことができる。（心の日のワークシート、日々の言動など）	91 R7 93 R6 95	自分や友達の良いところを認め、仲良く生活できるような手立てを講じている。	100 R7 91 R6 96
	よいことと悪いことを判断し、行動することができる。（【相生小マナー】をしっかりと守っている）	92 R7 85 R6 82	子供は、善悪を判断し、正しく行動することができる。	88 R7 91 R6 89	善悪の判断をし、行動できるような手立てを講じている。	96 R7 95 R6 92
	いつでもだれに対しても挨拶をすることができる。（挨拶をされたら、相手に返している。学校の先生や友達、登下校中の地域の方など）	90 R7 92 R6 89	子供は、地域や家庭で進んで挨拶をすることができる。	75 R7 79 R6 77	いつでも誰にでも挨拶ができるような手立てを講じている。	82 R7 91 R6 79
	よりよい学級・学年・学校にするために進んで働くことができる。（係活動、学級清掃、高学年の委員会活動など）	92 R7 94 R6 92	子供は、よりよい学級・学年・学校にするために、進んで働くことができる。（係活動、委員会活動、清掃活動への取り組みなど）	85※ R7 88 R6 85	よりよい学級・学年・学校にするために働くことができるような手立てを講じている。	91 R7 91 R6 92

心 身 と も に 健 康 で 、 鍛 え 合 い 、 あ き ら め ず に 挑 戦 し 続 け る 子	体を動かすことが楽しく、学校で進んで運動している。	87 R7 87 R6 82	子供は、体を動かすことが好きで、学校で進んで運動している。	84 R7 85 R6 83	体を動かす楽しさを味わい、学校で進んで運動したり、繰り返し運動したりするための手立てを講じている。	100 R7 85 R6 92
	<u>規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはんなど）や身だしなみを整えること（爪を切る、ハンカチ・ティッシュの持参など）が</u> できている。	88 R7 92 R6 86	<u>子供は規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはんなど）や身だしなみを整えること（爪を切る、ハンカチ・ティッシュの持参など）が</u> できている。	81 R7 89 R6 91	<u>すこやかチェックや心の日などを活用し、健康に気を付けて生活ができるような手立てを講じている。</u>	91 R7 95 R6 96
	<u>自分の体の健康のため、好き嫌いをせず、自分に合った量の給食を残さず食べている。</u>	82	<u>子供は、体の健康のことを考え、好き嫌いをせず、食事を残さず食べている。</u>	77	<u>個々に合わせた適量の給食を、好き嫌いなく、時間内に食べられるような手立てを講じている。</u>	90
	周りをよく見て安全に生活することができる。（ろうか・階段の歩き方、教室での過ごし方、遊び方、登下校の交通ルールなど）	90 R7 87 R6 88	子供は、周りをよく見て安全に生活することができる。（登下校の交通マナーや放課後の遊び方、学校での過ごし方など）	91 R7 92 R6 91	周りの状況を見て、安全に生活できるような手立てを講じている。（廊下歩行、教室での過ごし方、遊び方指導、環境整備、登下校指導など）	100 R7 86 R6 85

キ ャ リ ア 教 育	相手の話をよく聞き、友達と協力して行動している。	95 R7 94 R6 89	子供は、相手の話をよく聞き、友達と協力して行動することができる。	88 R7 94 R6 90	子供が相手の話を聞き、友達と協力して行動できるような手立てを講じている。	96 R7 90 R6 92
	自分のよさに気が付き、自信をもっている。	84 R7 83 R6 79	子供は、長所を伸ばしたりさらに高めようと努力したりしている。	80 R7 84 R6 82	子供が自分のよさに気が付き、自信をもつような手立てを講じている。。	87 R7 91 R6 100
	失敗を恐れず自分の考えた方法で繰り返し挑戦している。	88 R7 88 R6 84	子供は、失敗を恐れず自分の考えた方法で繰り返し挑戦することができる。	68 R7 72 R6 72	子供が失敗を恐れず自分の考えた方法で繰り返し挑戦できるような手立てを講じている。	87 R7 76 R6 88
	夢や目標に向かって努力したり、意欲をもって学ぶことができる。	91 R7 90 R6 88	子供は、夢や目標に向かって努力したり、意欲をもって学んだりすることができる。	76 R7 78 R6 78	子供が夢や目標に向かって努力したり、意欲をもって学ぶことができるような手立てを講じている。	96 R7 85 R6 96

★下線部はR8に加除修正した部分
 ★保護者についてはR8に「分からない」を追加
 したため、各項目平均で4%減となっている。

R8.7実施

児童	よく出来ている＋大 体できている(%)	保護者	よく出来ている＋大 体できている(%)	教職員	よく出来ている＋大 体できている(%)
学校は楽しい。	90 R7 90 R6 89	子供は、学校で楽しく生活して いる。	94	子供が、学校で楽しく生活でき るような手立てを講じている。 (日々の声掛け、授業の工夫、より よい学級づくりなど)	96
先生は、声を掛けてくれたり、話を 聞いてくれたり、よいところをほめ てくれたりする。(担任の先生、か かわりのある先生)	94 R7 93 R6 94	学校は、子供に寄り添い、教育 活動を行っている。	91 R7 92 R6 97	子供に、十分な声掛け、意図的な 称揚・紹介、話を聞く機会の設定な どをしている。	95
		学校は、子供のことを相談しや すい。 (日々の連絡、個別面談、教育 相談、スクールカウンセリング など)	88 R7 90 R6 93	必要に応じて子供の様子を保護者 に伝えたり、保護者の思いや考えを 聞いて、連携したりすることができ ている。(日々の連絡、個別面談、 教育相談、SCなど)	95
先生のほかに学習ボランティアさん などに支援してもらった学習や活動 は楽しい。	95 R7 96 R6 94	学校では、教師のほかにCSボラン ティアさん(風の子太陽の子応援 団)などに支援してもらって学習や 活動を安全かつ充実させる工夫を 行っている。	93 R7 97 R6 94	CSボランティアの協力を得て、 より安全で、充実した教育活動がで きている。	95 R7 91 R6 100
		学校は、学校・学年便り、さくら連 絡網、ブログなどで学校の教育活動 を知らせている。	98 R7 97 R6 96	学校・学年だより、さくら連絡 網、ブログ等での連絡を通して、開 かれた学校づくりができています。	100 R7 86 R6 92
				《学校全体として》職員の子供と向 き合う時間の確保ができるような手 立てが講じられている。(業務の精 選、スマート会議の実施、事務負担 軽減、職場環境の整備など)	79 R7 73 R6 55
				《自分が》子供と向き合う時間の確 保ができるように、自らのタイムマ ネジメントができています。	70 R7 62 R6 56

成果と課題

1. 成果（よくできている点）

- **学校生活の満足度と教職員との信頼関係** 児童の**90%**が「学校は楽しい」と回答し、保護者の 95%も子供が楽しく生活していると感じています。また、先生が「話を聞いてくれる」「よいところをほめてくれる」という項目も児童から 94%**の高い支持を得ており、教職員が子供に寄り添った教育活動を行っていることが示されています。
- **ICT（クロームブック）の活用** クロームブックを使う際のルールや約束の遵守について、児童の**96%**が「正しく使っている」と回答しています。学校側も ICT 機器を活用した工夫した授業を展開しており、子供たちがそれを楽しみにしている様子が伺えます。
- **自他を認め合う人間関係の構築** 「友達のよいところに気付くことができている」という項目は児童・教職員ともに**93～94%**と高く、相手の話を聞き友達と協力して行動する姿勢も定着しています。
- **CS（コミュニティ・スクール）ボランティアとの連携** 学習ボランティア等に支援してもらった活動は児童の**95%**が「楽しい」と感じており、教職員もボランティアの協力によって安全で充実した教育活動ができている（95%）と高く評価しています。
- **学校からの情報発信** 学校・学年だよりやブログ等を通じた教育活動の知らせについては、保護者の 98%、教職員の**100%**が肯定的に回答しており、開かれた学校づくりが順調に進んでいます。

2. 課題（今後改善が必要な点）

- **地域や家庭での挨拶** 学校内での挨拶は概ね良好ですが、「地域や家庭で進んで挨拶をする」という項目は児童の回答が**76%**にとどまっており、いつでも誰にでも挨拶ができるような継続的な指導が課題となっています。
- **失敗を恐れず挑戦する意欲** 「失敗を恐れず自分の考えた方法で繰り返し挑戦している」という児童の自己評価は 70%（令和 7 年度：72%）と他の項目に比べて低く、主体的に挑戦し続ける力を育てる手立てが必要です。
- **食育（給食の完食と好き嫌い）** 「好き嫌いをせず、自分に合った量の給食を残さず食べている」という項目は、児童（82%）および保護者（78%）の評価が比較的低くなっており、個々に合わせた適量を時間内に食べられるような指導が求められています。
- **家庭学習の主体性** 「自分で家庭学習に進んで取り組んでいる」という項目に対する保護者の評価は**76%**であり、以前の数値（R6: 82%, R5: 78%）と比較しても改善の余地があります。
- **教職員の「子供と向き合う時間」の確保** 教職員アンケートにおいて、「子供と向き合う時間の確保」に関する自己評価は 70%、学校全体としての手立ては**79%**と、全項目の中で最も低い数値となっています。業務の精選やタイムマネジメントを通じた、子供と関わる時間のさらなる確保が喫緊の課題です。